

平成 23 年度

慶應義塾大学入学試験問題

法 学 部

地 理 歴 史 (世界史)

- 注 意
1. 指示があるまで開かないこと。
 2. 解答用紙のそれぞれ指定された箇所に氏名と受験番号を記入すること。受験番号欄には忘れずマークすること。
 3. 解答は、必ず解答用紙の指定の欄にマークすること。
 4. 解答用紙（マークシート）の解答欄にマークするときには、すべて HB の黒鉛筆を使用し、また、次の解答例に従うこと。
(解答例)

(1)	(2)
-----	-----

 と表示のある問いに対して、「09」と解答する場合は、右に示すように解答欄 (1) の ⑨ と (2) の ⑨ にマークすること。
 5. 下書きの必要があれば、問題冊子の余白を利用すること。解答用紙の余白には何も書いてはいけない。
 6. この問題冊子は 9 頁ある。試験開始後ただちに落丁、乱丁等の有無を確認し、異常がある場合にはただちに監督者に申し出ること。

(1)	(2)
●	○
①	①
②	②
③	③
④	④
⑤	⑤
⑥	⑥
⑦	⑦
⑧	⑧
⑨	●
○	○

問題 I

以下の問題文の空欄 (1) (2) から (13) (14) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (15) (16) から (オ) (23) (24) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

世界史を学んでいると、大国に翻弄される小国の姿をしばしば目にすることができる。しかし、^(ア)キューバは小国でありながらアメリカ合衆国という大国に対峙しつつ、社会主義国の中でもソ連や中華人民共和国とは一線を画した、独自の理念を掲げてきた。

第二次独立戦争を指導し、「キューバ独立の父」といわれる (1) (2) は、ラテンアメリカを「われらのアメリカ」と名付け、アメリカ合衆国と区別した。彼は、フィデル＝カストロに絶大な影響を与えた人物である。

1959年、カストロとチェ＝ゲバラらが指導した武装解放闘争によって親米の (3) (4) 政権が倒されたが、キューバはその後ただちに社会主義路線を採用したわけではなかった。しかし、民間企業が国有化されたことにより、アメリカ合衆国はキューバからの砂糖輸入停止など経済的圧迫を加え、新政権の転覆を図ろうとした。それに反発したキューバは、1961年に社会主義を宣言し、ソ連への傾倒を強めていく。その結果、アメリカ合衆国の (5) (6) 政権はキューバとの国交を断絶し、亡命キューバ人を支援するようになった。さらに、アメリカ合衆国は、パン＝アメリカ会議が採択したボゴタ憲章によって成立した (7) (8) でキューバに対する制裁を決議し、食糧や医薬品以外の全面的な禁輸措置をとった。

そのような状況下、ソ連がキューバにミサイル基地を建設しようとしたことがきっかけとなり、^(イ)キューバ危機が発生した。結果として戦争は回避され、米ソ首脳間にホットラインが設置されるなど緊張緩和が進んだ。しかし、キューバは、そのようなソ連の譲歩に失望し、第三世界との連帯を深めていく。

キューバは第三世界における革命運動への支援、いわば「革命の輸出」を志向し、低開発や従属から脱却しようとするラテンアメリカ諸国の解放運動に影響を与えた。キューバの国外関与は、アルゼンチン生まれのゲバラを中心に展開された。ゲバラは、中国や東欧、アフリカの ^(ウ)コンゴなど世界各地を飛び回った。しかし、ゲリラ闘争下にあった (9) (10) で捕まり、処刑されてしまう。

その後もキューバは、第三世界における抑圧的な体制からの解放運動に対して物心両面にわたる積極的支援を与え、^(エ)1970年代にはアフリカへの派兵も行っている。またラテンアメリカでは、キューバの支援を受け、1970年に社会主義を標榜する (11) (12) 政権がチリで成立したほか、1979年、ニカラグアではサンディニスタ民族解放戦線による革命が成功している。

キューバは中華人民共和国にも不満を抱いていた。中華人民共和国は、中ソ論争でキューバを自陣営の下におこうとしたばかりか、ベトナムに対して「大国主義的な姿勢」をとったからであった。^(オ)中越戦争でベトナムを支持していたカストロが、初めて中華人民共和国を訪問したのは、1995年になってからのことであった。

一度はソ連から距離を置いたかのようにみえたキューバだが、カストロは1968年のソ連軍による (13) (14) への侵攻を容認した。その後、1970年代になるとソ連礼賛が始まり、1976年に制定されたキューバ憲法の前文には社会主義諸国の援助に対する謝辞まで含まれていた。というのもソ連は、砂糖の増産計画に失敗したキューバを積極的に支援したからであった。1980年代後半には、ゴルバチョフ・ソ連共産党書記長がペレストロイカを開始し、その後の冷戦終結に向けた流れのなかでキューバ経済は大きく悪化した。1990年代には、自営業の一部許可や外国資本の導入など新たな経済政策によって体制の生き残りを図る一方、アメリカ合衆国とは対峙したまま、他のラテンアメリカ諸国と連携しながら独自の路線を追求してきた。

世紀を超えた今、「革命の輸出」に代わり、医療関係者を軸に据えた「白衣外交」とも称される国際協力を積極化するなど、キューバは「われらのアメリカ」という理念にもとづき、アメリカ大陸という地域を超えた、第三世界との連携を引き続き模索している。

設問

(ア) キューバに長期間住み、『老人と海』でノーベル文学賞を受賞したアメリカ合衆国出身の作家は誰か。

(15) (16)

(イ) キューバ危機発生のに年にアジアで初めて国連事務総長を誕生させ、1980年代終盤まで独自の社会主義を標榜していた国はどこか。

(17) (18)

(ウ) コンゴ動乱は銅資源の獲得をめぐる紛争が発端となったが、同時期に西アフリカでも石油資源が一つの契機となって戦争が引き起こされた。この戦争は何か。

(19) (20) 戦争

(エ) 1975年、ポルトガルからの独立に際して発生した内戦にキューバが介入したアフリカ大陸西岸の国はどこか。

(21) (22)

(オ) 中越戦争の契機となったのは、カンボジアに親ベトナム政権が成立したことであった。この政権は何か。

(23) (24) 政権

〔語群〕

- | | | | |
|--------------------|---------------|-------------|---------------|
| 01. アイゼンハウアー | 02. アギナルド | 03. アジェンデ | 04. アメリカ連合規約 |
| 05. アルバニア | 06. アンゴラ | 07. ヴァルガス | 08. エクアドル |
| 09. エチオピア | 10. カミュ | 11. カルティニ | 12. カルデナス |
| 13. ギニア＝ビサウ | 14. ケネディ | 15. コロンビア | 16. コンゴ |
| 17. シハヌーク | 18. シモン＝ポリバル | 19. ジンバブエ | 20. スタインベック |
| 21. スーダン | 22. スリランカ | 23. ソマリア | 24. ソモサ |
| 25. チェコスロヴァキア | 26. チャベス | 27. トルーマン | 28. ネ＝ウィン |
| 29. ノリエガ | 30. ハーグ協定 | 31. パティスタ | 32. パラグアイ |
| 33. ハンガリー | 34. バングラデシュ | 35. ビアフラ | 36. ビリャ |
| 37. ビルマ | 38. フィッツジェラルド | 39. フーヴァー | 40. ブータン |
| 41. フランクリン＝ローズヴェルト | | 42. ブルキナファソ | 43. フン＝セン |
| 44. 米州機構 | 45. 米州共同防衛条約 | 46. 米州自由貿易圏 | 47. ヘミングウェイ |
| 48. ペルー | 49. ヘン＝サムリン | 50. ホセ＝マルティ | 51. ホセ＝リサール |
| 52. ポーランド | 53. ボリビア | 54. ポル＝ポト | 55. マーク＝トウェイン |
| 56. マサリク | 57. マデロ | 58. モザンビーク | 59. モンゴル |
| 60. ルーマニア | | | |

問題 II

以下の問題文の空欄 (25) (26) から (35) (36) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (37) (38) から (カ) (47) (48) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

2010年ワールドカップにおけるスペイン初優勝は、スペイン国民のあいだにかつてない一体感をもたらした。(25) (26) 作の『カタロニア賛歌』に描かれたカタルーニャ自治州を筆頭に、国家公用語とは異なる言語を話す地域の人々さえもが、「ビバ・エスパーニャ（スペイン万歳）」の掛け声とともにスペイン代表を応援した。こうした光景は、これまでのスペインでは見られないものであった。「ビバ・エスパーニャ」という言葉は、現行憲法に国家公用語と明記されているカスティーリャ語での表現である。今日のスペインでは、このカスティーリャ語のほかに、自治州の固有の公用語を有する権利を認める同憲法のもとで、カタルーニャ自治州ではカタルーニャ語が、ガリシア自治州ではガリシア語が話されている。そこで、言語と地域ナショナリズムの関係から、スペインの近現代史を振り返ってみよう。

現行憲法のもとで地方分権と民主化が制度化されるのは、フランコ政権崩壊後のことである。フランコは、カスティーリャ王女イサベルと、アラゴン王子フェルナンドによるスペイン統一と新大陸統治から着想を得て、「一つにして、偉大で自由なるスペイン」というスローガンを (27) (28) 党の理念に据えた。「一つのスペイン」というフランコの方針は、1936年の総選挙により成立した人民戦線内閣において、首相に返り咲いた (29) (30) の自由主義的な方針とは正反対のものであった。

フランコの独裁体制は言語に対する激しい弾圧をおこなったことで知られる。最も顕著なのがカタルーニャ全土でおこなわれた言語弾圧である。当時のカタルーニャでは、町のいたるところに「愛国者ならスペイン語（カスティーリャ語）を話せ！」といったポスターが貼られ、職場でカタルーニャ語を使用した者は解雇された。また、自治体、道路、広場などの固有名詞はすべてカスティーリャ語表記に変えられ、戸籍簿のカタルーニャ語名での登録も禁止された。

1946年に開催された国連総会は、スペインがファシスト体制であることを理由に、スペインの国連加盟を拒否し、加盟国に対して、スペインからの大使の召還を勧告した。そこでフランコはスペイン語とカトリズムという文化的共通点を強調し、外交関係の強化を訴えることで、ラテンアメリカ諸国を味方につけた。とりわけ、反米反ソ外交を掲げるアルゼンチン大統領 (31) (32) は、国連の勧告を無視してスペインへ大使を送り、小麦不足のスペインに70万トンもの小麦を輸出した。

この独裁政権は、フランコの病死により終焉を迎えた。亡き独裁者によって元首継承者に指名されていた (33) (34) が王位につくと、新憲法の起草が開始された。その過程で最大の難題となったのが地方自治と言語をめぐる問題であった。そこで1978年施行の同憲法第3条では、第1項でカスティーリャ語はスペインの国家公用語であると定めながらも、同条第2項では、自治州憲章にしたがい、カスティーリャ語以外のスペインの諸言語を各自自治州の公用語とすることを認めた。こうしてスペインは、地域ナショナリズムと対峙しつつ、多言語社会を標榜することとなる。

近年、アラビア語で「日の没する地」を意味する (35) (36) や ラテンアメリカ諸国をはじめ、州外から多くの移民労働者が流入している。その現実を前に、各自自治州は、移民との共存に向けたさまざまな言語政策を模索している。

設問

- (ア) 今日のスペインでは、カタルーニャ自治州、ガリシア自治州以外に、自治州憲章により国家公用語であるカスティーリャ語以外の言語を公用語と定めている自治州がある。ピカソが内戦中にこの地を襲った空爆を題材とする絵を描いたことで知られる、その自治州はどこか。 (37) (38)
- (イ) フランコは、1936年7月におこった軍の反乱を機にアフリカにおけるスペイン領に独裁政権樹立の足がかりをつくったが、現在その地は、アフリカ連合に加盟していない唯一のアフリカ国家となっている。その国はどこか。 (39) (40)
- (ウ) 弱小国の王からスペイン王国に君臨する王となったフェルナンドを、自身の作品の中で政略に長けた人物として評価した同時代の著作家は誰か。 (41) (42)
- (エ) 人民戦線内閣を支援するために国際義勇軍として海外から多くの知識人が参加した。そのうちの一人で、メキシコ壁画運動の中心人物であり、メキシコ革命にも参加した画家は誰か。 (43) (44)
- (オ) 同時期、隣国ポルトガルもまた独裁政権下にあった。1932年から1968年まで独裁体制を敷き、その一方でポルトガルの国際連合加盟や北大西洋条約機構加盟に成功した政治指導者は誰か。 (45) (46)
- (カ) フランコ政権の終焉と時期を同じくして、南米でいち早く新自由主義の経済政策を採用する独裁政権が生まれた。その政治指導者は誰か。 (47) (48)

[語群]

- | | | | |
|----------------|-------------|-----------------|---------------|
| 01. アサーニャ | 02. アラゴン | 03. アルジェリア | 04. アルフォンソ13世 |
| 05. アロヨ | 06. アンダルシア | 07. イダルゴ | 08. オーウェル |
| 09. オゴルマン | 10. オロスコ | 11. カスティーリャ=レオン | |
| 12. カナリア | 13. カフカ | 14. カランサ | 15. カルロス2世 |
| 16. サパタ | 17. サハラ | 18. サラザール | 19. シケイロス |
| 20. シリア | 21. シン=フェイン | 22. スピノラ | 23. スペイン社会労働 |
| 24. 制度的革命 | 25. ダンテ | 26. チュニジア | 27. デ=ヴァレラ |
| 28. ディアス | 29. ティエール | 30. トーマス=マン | 31. ナバーラ |
| 32. バスク | 33. バドリオ | 34. バルガス=リョサ | 35. ピカソ |
| 36. ピニェラ | 37. ピノチェト | 38. ファランヘ | 39. ファレス |
| 40. ファン=カルロス1世 | 41. フェリペ5世 | 42. フジモリ | 43. プリモ=デ=リベラ |
| 44. ブルム | 45. ペトラルカ | 46. ペロン | 47. マキャヴェリ |
| 48. マグリブ | 49. マヌエル1世 | 50. マラケシュ | 51. マルタ |
| 52. マルロー | 53. 民主革命 | 54. モラレス | 55. モロッコ |
| 56. モンテーニュ | 57. リビア | 58. リベラ | 59. ロイヒリン |
| 60. ロマン=ロラン | | | |

問題Ⅲ

以下の問題文の空欄 (49) (50) から (65) (66) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問(ア) (67) (68) から(エ) (73) (74) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

2010年6月、日本の小惑星探査機「はやぶさ」の機体から切り離されたカプセルが南オーストラリア州ウーメラ地区に落下した。「はやぶさ」の旅に日本中が沸き、日豪関係の歴史にささやかな一ページが加わったわけだが、旅の終着点となったこの砂漠は、オーストラリアとオセアニアの歴史を考えるうえで興味深い土地である。

ウーメラは、先住民族アボリジニと関係の深い場所である。アボリジニの祖先は数万年前に東南アジアを経てオーストラリア大陸にやってきた。「アボリジニ」とは白人がつけた総称であり、多数の言語集団に分かれている。隣接するインドネシアでは古くから (49) (50) 語族が広範に分布していたが、アボリジニ諸語はそれには属さない。アボリジニは自らの土地を定期的に移動する生活を送ってきたため、土地との文化的・精神的結びつきが強い。アボリジニ独特の世界観「ドリーミング」においては、さまざまな土地が聖地である。「はやぶさ」が使命を全うした場所も、そのような土地であった。

1642年に (51) (52) が現在のオーストラリア領の一部を発見した後、18世紀後半にイギリスが東南部オーストラリアの領有を宣言した。アメリカ独立戦争によって囚人の流刑先を失ったイギリスは、オーストラリアを新たな流刑地とすべく、第一船団をシドニーに送りこんだ。同時期にヨーロッパ人が到来したニュージーランドでは、1840年に先住民族 (53) (54) とのあいだでワイタンギ条約が結ばれたが、オーストラリアでは先住民族の土地は所有者のいない「無主地」とみなされた。こうして太古からアボリジニが暮らしてきた大陸は、白人によって征服されていった。

19世紀に入ると流刑囚以外の移民が増加し、オーストラリアの各植民地は移民社会として発展した。1851年に金鉱が発見され、ゴールドラッシュが起きたことで移民が大量に流入し人口が急増した。しかしアジアからの移民の増加は白人住民の不安も高めた。その結果、1901年に6つの植民地がオーストラリア連邦を結成すると、白豪主義と呼ばれる諸政策が定着した。 (イ) こうして日本人を含む有色人移民は排斥され、アボリジニの人々は英国風の文化に同化を余儀なくされた。第一次世界大戦では日本とオーストラリアはともに連合国側で戦ったが、日本が (55) (56) で国際連盟規約に人種差別撤廃条項を含めることを提案した際、オーストラリアは強硬に反対した。

白豪主義は、第二次世界大戦の後も続いたが、軍事的・経済的理由で人口を増加させる必要に迫られ、北東アジアや東南アジア諸国との結びつきが強まったため、国益にそぐわないものとなった。オーストラリアは東南アジア諸国である (57) (58) やフィリピンなどとともに関東南アジア条約機構に加盟し、反共軍事同盟を形成した。1970年代になるとオーストラリアは多文化主義への移行を宣言した。その後も (59) (60) 首相が提唱したアジア太平洋経済協力会議が発足するなど、オーストラリアとアジア諸国の関係はいっそう緊密化し、アジアからの移民を大量に受け入れ多民族社会化していった。しかし、反移民・難民感情が高まることもあった。連邦政府は難民申請者たちを遠隔地の収容施設に閉じ込める政策をとったが、その施設の一つがウーメラにあった。

先住民族の土地であったウーメラは、主のいない「遠隔地」とみなされたゆえに軍事区域になり、難民申請者たちの収容施設がつくられ、「はやぶさ」のカプセルの着地点に選ばれた。また、ウーメラには核実験場もあった。オーストラリアだけではなく、第二次世界大戦後のオセアニアでは先進諸国によって数多くの核実験が行われた。2010年に世界遺産に登録されたピキニ環礁はその象徴である。そのほかにも、 (61) (62) 環礁では1990年代に至るまで度重なる核実験が行われた。これに抗議した南太平洋フォーラムが1985年に締結したのが (63) (64) である。この条約に加盟し

たニュージーランドではロンギ政権が核兵器を搭載した艦船などの寄港を禁じる法律を成立させ、(65) (66) は事実上解体した。

(エ) 先住民族の権利、核実験、難民申請者問題、そして「はやぶさ」の帰還といった一見無関係な出来事は、砂漠に立って眺めてみればつながっている。ウーメラはオーストラリアとオセアニアの先住民族、移民・難民、外交・安全保障の歴史の交差点なのである。

設問

(ア) 日豪関係は、1831年に始まったとされる。それは、現在の日豪関係にも少なからぬ影響を与えている産業に従事するオーストラリアの人々が日本人と接触したことがきっかけであった。その産業とは何か。(67) (68)

(イ) 1867年にイギリスの植民地ではじめて自治領になったのはどこか。(69) (70)

(ウ) 1941年に真珠湾攻撃が起こると、オーストラリアは日本に宣戦布告した。しかし、イギリス軍の拠点であったある都市が1942年2月に陥落した後、オーストラリア本土は日本軍の脅威にさらされることになる。こうした状況下、オーストラリア北部の主要都市が空爆を受けた。イギリス軍の拠点であったある都市とはどこか。(71) (72)

(エ) 自然と共生してきた先住民族の権利と環境問題は密接に関係している。2010年に日本で締約国会議が開催された、環境問題に関する国際条約は何か。(73) (74)

[語群]

- | | | | |
|----------------|------------------|--------------|--------------|
| 01. ANZUS | 02. CENTO | 03. METO | 04. NATO |
| 05. PIF | 06. アイルランド | 07. アフロ=アジア | 08. インド |
| 09. インドネシア | 10. ウィットラム | 11. エニウエトク | 12. オーストロアジア |
| 13. オーストロネシア | 14. カナダ | 15. カレン | 16. カンボジア |
| 17. 気候変動枠組条約 | 18. キーティング | 19. 銀採掘 | 20. クック |
| 21. サンフランシスコ会議 | 22. サンフランシスコ講和会議 | 23. ジャカルタ | |
| 24. シンガポール | 25. 製鉄 | 26. 生物多様性条約 | 27. 世界遺産条約 |
| 28. 石炭採掘 | 29. タイ | 30. ダーウィン | 31. タスマン |
| 32. チャム | 33. ドラヴィダ | 34. トラテロルコ条約 | 35. ドレーク |
| 36. 南極条約 | 37. ニュージーランド | 38. パリ講和会議 | 39. ハワード |
| 40. バントゥー | 41. 部分的核実験停止条約 | 42. フレイザー | 43. ベルリン会議 |
| 44. 包括的核実験禁止条約 | 45. ホーク | 46. 捕鯨 | 47. 香港 |
| 48. マオリ | 49. マカオ | 50. マーシャル | 51. マニラ |
| 52. マラリング | 53. マレーシア | 54. 南アフリカ | 55. ミャオ |
| 56. ムルロア | 57. 綿糸紡績 | 58. ヤオ | 59. ラオス |
| 60. ラ=ペルーズ | 61. ラムサール条約 | 62. ラロトンガ条約 | 63. ロンゲラップ |
| 64. ワシントン会議 | 65. ワシントン条約 | | |

問題 IV

以下の問題文の空欄 (75) (76) から (87) (88) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問(ア) (89) (90) から(カ) (99) (100) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

「歴史の父」の名を冠されるヘロドトスをはじめ、歴史は古今東西さまざまな形式で叙述されてきた。ヨーロッパ^(ア)における近代歴史学の成立以降は、「イギリス史」や「フランス史」といった、「国民国家」の枠組みを踏まえた叙述形式が確立している。しかし、こうした枠組みの前提となる「国民意識」なるものがいつごろ形を取り始めたのかという問題は、最近の歴史学における重要な論点となっている。

英仏両史において「国民」なる意識が形を取り始めたと考えられるのは、「百年戦争」の時代である。この戦争は、フランス王位継承権とそれに伴う領土をめぐる、同族である英仏両王家の間でほぼ1世紀にわたって繰り広げられた。

その前史として、大陸所領をめぐる封建主従の抗争があった。^(イ)11世紀、イングランドに征服王朝を打ち立てたウィリアム1世は、元来フランス王に臣従するノルマンディー公であり、したがってフランス王の臣下がイングランド王を兼ねていたことになる。後に縁戚関係によってノルマンディー公位と共にイングランド王位を継承したヘンリ2世にしても、(75) (76) 伯としてフランス王に臣従する身であった。さらに、フランス王との覇権争いに敗れ、大陸所領のほとんどを失ったジョン王も、引き続きボルドーを中心都市とする(77) (78) 公領の領有を認められた。このことは、以後大陸外に拠点を移したイングランド王に旧領回復の足がかりを与えることになった。

カペー朝の断絶をうけて、1328年に分家筋のヴァロワ伯家当主が(79) (80) としてフランス王に即位すると、カペー宗家出身の母を持つイングランド王(81) (82) もフランス王位を要求し、戦端が開かれた。^(ウ)戦局は当初イングランド優位に進んだ。こうした情勢の背景には、国王派と親英派に分かれたフランス宮廷の内紛があり、それにはフランドル地方の羊毛貿易が深く絡んでいる。当時、^(エ)北ヨーロッパ商業圏の要であったフランドル地方は、羊毛の加工・輸出が基幹産業であったため、原料の輸入元であるイングランドからの物流が途絶えることは死活問題であった。そこで、時のフランドル伯たる(83) (84) 公は、自領の商業活動に配慮しつつ、親英派としてイングランド王と結託したのである。

このように、封建領主の所領争いという構図において、百年戦争とその前史との間に一見大差はないが、「国民意識の萌芽」という点で両者は決定的に異なっている。^(オ)ジャンヌ＝ダルクがフランスを百年戦争の勝利に導いたという逸話は有名であるが、ここで重要なのは、そうした救国の声をあげたのが他ならぬ農家出身の少女であったという点である。このことは、出自からして同族たるイングランド王を異国の敵としてフランスから撃退すべきとの共通認識、いわば国民意識とも言うべきものが、人々に広く共有されていたことを端的に示している。このように相手方を異国とする認識は、同時期のイングランドにも見られ、14世紀に遡る「英語の生成」と軌を一にする。折しも^(カ)ウィクリフが聖書を英訳し、チョーサーが『カンタベリー物語』を著すなど、イングランドで英語が言語としての形を整えつつあった。ノルマン朝以来のフランス語文化からの脱却が進むにつれ、言語の違いが国民性の違いをも意識させることになった。かくして、イングランドでは異国の王に臣従し続けることへの嫌悪感が、対するフランスでも異国人の王は容認できないという意識が、身分制議会を介して徐々に民意へと高まっていく。相次ぐ戦乱のため財政難にあえぐ両王は、バルディ家やベルツィ家、さらにフランス王は(85) (86) を財務官として重用するなど、大商人に頼った。そして、身分制議会をいわば国王の切り札として、臨時課税による戦費の調達について、聖職者・貴族・平民の承認を取り付けた。このようなプロセスを経て、挙国一致の雰囲気醸成されたのである。

後にルイ16世によって (87) (88) 年ぶりに招集された全国三部会も、国民議会への流れのなかで、そうした挙国一致的な性格をより明確に体现しているという点で、近代国民国家の本格的な幕開けとされる。つまり百年戦争は、単なる所領争いを越えた新たな政治単位としての「国」とそれを担う「国民」どうしの衝突であった。そこでの「フランス」や「イングランド」なるものは、それまで無数の所領の寄せ集めに過ぎなかった王国の境界が画定され、そこに住む人々が一定の帰属意識を共有して初めて誕生したという意味で、国民意識の萌芽を示すものといえるだろう。

設問

- (ア) ヘロドトスの『歴史』はペルシア戦争史を叙述したものであるが、アケメネス朝ペルシアの王で、エジプト征服(紀元前525年)によりオリエントを再統一した人物は誰か。 (89) (90)
- (イ) 同じくノルマンディーを發った一派はナポリとシチリアにも進出したが、1130年かの地に「両シチリア王国」を建国した人物は誰か。 (91) (92)
- (ウ) 「クレシーの戦い」と「ポワティエの戦い」においてイングランド軍が駆使し、その勝利を決定付けた兵力は何か。 (93) (94)
- (エ) 北ヨーロッパ商業圏に対する地中海商業圏を支えた東方貿易はインド洋交易圏からの香辛料の輸入を主としていたが、当時両者の仲介役となったカーリミー商人が中継地とした紅海沿岸の港市はどこか。 (95) (96)
- (オ) 「ベトナムのジャンヌ＝ダルク」とも称され、ベトナムの民族的英雄となっている徴姉妹が後漢に対して反乱(40～43年)を起こしたベトナム北部の地はどこか。 (97) (98)
- (カ) トリエント公会議においてローマ＝カトリック教会の標準聖書とされた『ウルガタ』の訳業をなした人物は誰か。 (99) (100)

[語群]

- | | | | |
|----------------|---------------|-------------|--------------|
| 01. アインハルト | 02. アタナシウス | 03. アデン | 04. アラリック |
| 05. アルダシール1世 | 06. アレクサンドリア | 07. アンジュー | 08. アンリ3世 |
| 09. 弩隊 | 10. エウセビオス | 11. エグベルト | 12. エドワード黒太子 |
| 13. エドワード3世 | 14. オーヴェルニュ | 15. オルレアン | 16. カンビュセス2世 |
| 17. ギゾー | 18. 騎兵隊 | 19. ギュイエンヌ | 20. キュロス2世 |
| 21. ギョーム＝カール | 22. 交趾郡 | 23. ジェームズ1世 | 24. ジャック＝クール |
| 25. シャルル7世 | 26. ジャン2世 | 27. シャンパーニュ | 28. シーラーフ |
| 29. スーラト | 30. ダレイオス1世 | 31. 鉄砲隊 | 32. トゥールーズ |
| 33. ドウンス＝スコトゥス | 34. ドーフィネ | 35. 長弓隊 | 36. 南海郡 |
| 37. 日南郡 | 38. ネブカドネザル2世 | 39. バスラ | 40. ヒエロニムス |
| 41. フィリップ6世 | 42. ブーシェ | 43. 扶南 | 44. フランソワ1世 |
| 45. フリードリヒ2世 | 46. ブルゴーニュ | 47. ブルターニュ | 48. ブルボン |
| 49. プロヴァンス | 50. プロワ | 51. ベリー | 52. ヘンリ3世 |
| 53. 砲兵隊 | 54. ラングドック | 55. リチャード3世 | 56. 林邑 |
| 57. ルッジエーロ2世 | 58. レジス | 59. ロレーヌ | 60. ロロ |
| 61. 118 | 62. 136 | 63. 141 | 64. 175 |
| 65. 191 | | | |

